TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

# 信仰から繁栄へ /コロサイ人への基本事項
## クリスマスの意味 その2 コロサイの信徒への手紙第３章 12-17 節

2024 年 12 月 28 & 29 日
ジェシー・マーク・セザリオ 牧師

**ご挨拶**
TBC ウエスト トウキョウ、TBC 三郷、スバ、トンガバプテスト教会を含む、私たちと共に礼拝を捧げている皆さんにご挨拶申し上げます。私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みが今日、皆さんと共にありますように。
では祈りましょう。

**はじめに**
今日は、「クリスマスの意味」メッセージセットの続き、パート 2 です。第 3 章では、パウロが聖霊のインスピレーションを受けて書いていることを思い出してください。これは今日の教会のためのものであり、ここで神学から実践への大きな転換が行われます。

すべての「学問」や真理における神学的な知識、聖書的知識で満たされているすべての本、そうした知識に基づくすべての授業、すべての YouTube ビデオ、すべての物語、映画、聖書的意味を含んだ音楽など、これらすべては最終的な目的を持っていることを思い出してください。あらゆる名にまさる名、私達の主であり救い主であるキリストを高く上げ示すことです。
メッセージのパート 2 では、信者の死から、今や新しい命、キリストにある新しい命について見ていきます。
現在、聖書とは暗示に満ちた書物です。聖書的な意味での暗示とは、神が聞く耳を持つ者と見る目を持つ者に現れ、確実に来る未来の出来事に備えさせるためです。
そして、暗示は聖書の重要な側面であり、単なる文学的手法としてだけでなく、聖書の物語を伝えるためにも重要です。

聖書の物語と言うとき、私たちはフィクションについて話しているのではありません。聖書の物語は地上の全ての時代において実際に起こったこと、そしてこれから起こることです。

聖書における暗示の例としては、出エジプト記における過越しと過越の子羊です。過越は、主の民が神の怒りを経験しない方法を示しています。過越の子羊の血が家の戸口に塗られることで、破壊の天使がその家の長子を殺すのを防ぎます。これは、私たちのために流されたイエス様の血を象徴しています。
もう一つの暗示の例は、神の選ばれた民の保護、イスラエル･･･聖なる愛されし者･･･が争っている人々や地上の軍隊から守られていることです。
さらにもう一つの例として、地上の人々が滅ぼされた洪水で、ノアの方舟が生存者のための救いの道具となりました。
しかし、私達は現代における再建プロセスの規模について知る必要があります。滅ぼされる規模は地球だけではなく、主は宇宙全体の破壊を宣言されました。「しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は激しい音を立てて消えうせ、自然界の諸要素は焼け崩れ、地とそこで造り出されたものも焼けてしまいます。」(ペトロの手紙二 3:10)。

教会としての私達はどうなるのでしょう？聖書は言います、私たちは神の民の教会であり、キリストの花嫁です。そして今、そのプロセスが私たちの間で始まっています。
ヨハネの黙示録 21:4b-5a「もはや死もなく、悲しみも嘆きも痛みもない。最初のものが過ぎ去ったからである。」すると、玉座におられる方が言われた。『見よ、私は万物を新しくする。』」。

新しいものはあなたの中で始まります。
パウロはコロサイの信徒への手紙 1:28 でこう言っています。「このキリストを、私たちは宣べ伝え、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。それは、すべての人を、キリストにある完全な者として立たせるためです。」。

「完全な者」の目標はコロサイ人だけでなく、神の民に属するすべての人に対してです。この「完全な者」の状態は、主ご自身が示されています。これが、私たちが死んで今生きる理由であり、私たちの信仰の完璧なる方であるイエスに頼り、今礼拝する理由です。

前回、パウロが語っていたポイントは、肉体的な行いや行動を除くためには、まず、最初に主を礼拝することが必要だというものでした。私たちは主を礼拝するために何かを取り去るのではなく、実際にはその逆です。霊と真理にあって主を礼拝するとき、これらのものは自然と取り去られるようになります。

それでは、今日も以下の質問について考えてみてください。
新しくされるとはどのようなことでしょうか？ 「新しい」とはあなたにとって何を意味しますか？
今日は、私たちの人生における「新しい」シーズンの理由についてお話しします。

コロサイの信徒への手紙3章 12-14 節
「[12] ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。[13] 互いに耐え忍び、不満を抱くことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。[14] さらに、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛はすべてを完全に結ぶ帯です。」

パウロがこの手紙のことを、コロサイのこの手紙の受け取り手たちに対して、どのように参照しているのか見てください。コロサイの信徒たちだけにではなく、ラオディキアの教会にもこの手紙を転送するよう求めています。
彼は一度も会ったことのない見知らぬ人々であるこの教会を、何と呼んでいるでしょうか？パウロは、神に選ばれた者、聖なる者、愛される者として話しています。
しかし、なぜでしょうか？幸いなことにこれはわかります、彼はコロサイの信徒への手紙 1:4 でこう言っています。「キリスト・イエスにあるあなたがたの信仰と、すべての聖なる者たちに対してあなたがたが抱いている愛について、聞いたからです。」
この表現―選ばれた、聖なる、愛される―はイスラエルについて言われていますが･･･特に旧約聖書では、申命記 7:6-8 や出エジプト記 19:4-6、など多くの箇所で語っています。

この「選ばれた」というギリシャ語の言葉は、これらの教会や私たちの教会に適用され、神があなたを―永久にそして永遠に―ご自身の愛する者としたことを意味します！
あなたは神が愛する者であり、神の愛は決してあなたから奪われることはありません。

詩篇 136:1「主に感謝せよ。まことに主は恵み深い。慈しみはとこしえに。」
詩篇 136:26「天の神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。」

「愛」の言葉はヘブライ語で「ヘセド（checed）」であり、特別な種類の愛です。これは「献身的な愛」や「契約の愛」として知られています。また、「慈しみ」や「憐れみ」とも訳されます。
この愛こそが主なる神が私たちに対して抱いている愛なのです。
しかし私たちは、かなり長い道のりを歩んできました。

パウロはこう私たちに注意しています。
**コロサイの信徒への手紙 3:5-9a「[5] だから、地上の体に属するもの、すなわち、淫らな行い、汚れた行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかなりません。[6] これらのことのために、神の怒りが不従順の子らの上に下るのです。[7] あなたがたも、以前このようなものの中に生きていたときは、そのように歩んでいました。[8] しかし今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、冒瀆、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。[9] 互いに嘘をついてはなりません。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、」**

どうしてこうなるのでしょうか？なぜ神はご自身の御子とこのような人たちを共にいさせたいのでしょうか？

若い男性が結婚したいと思う女性を見つけ、家に連れてきたとき、親たちは「おっと！」と思いますよね。そう、それが教会である私たちです。

私たち教会は、御子のもとへ行く前に、間違った仲間と付き合い始めました。私たちはパウロが言及した悪い欲望というこの世の汚れに入り込み、そして、それをもっと欲しがるようになりました。非常に事態は悪く、私たちはついには危険地帯に陥ってしまったことに気付きました。
少し考えてみてください。これが父なる神が置かれた位置です。彼は唯一無二の御子が私たちと結婚する計画を持っていました。御子と結婚するように定められた私たち。
なんて哀れ、だって私たちは惨めな存在だったので。ここで「惨めな存在」の同義語を挙げてみます：悪党、粗暴な者、怪物、野蛮人、犯罪者、違反者、獣、さらには悪魔という言葉です。

神の愛と許しがあって良かったです！彼が私たちを贖ってくださったからです。
父なる神は、私たち惨めな存在を御子の姿に似せて育ててくださいます。これにより、私たちは御子と結ばれるために互いに適したものとなります。
そしてこれです、私たちは、神がどれほど良い方であるかを知っています。神は不可能を可能にすることができます。彼は介入し、私たちを礼拝する民として育て、洗練するプロセスを始められました。そして注目してください、彼は御子の中で私たちを「契約の愛」により愛してくださるのです。御子が花嫁と結婚するときに。
これが、神が離婚を憎む理由なのです。

これはディズニーチャンネルで見るようなおとぎ話の一つではないことを理解しなければなりません。そのような物語では、女の子は貧しいか、いじめられているか、何らかの不利益や不足を抱えていることがほとんどです。しかし、それは私たちではありません。これは私たちの物語ではありません。
私たちは物語の中で嫌われるキャラクターでした。最終的に成功しないことを願う悪者です。しかし、思い出してください、これは物語ではありません。これは私たちです。これは現実です。

そして神は私たち一人一人を贖い、神を喜ばせることができる民にしようとされています。彼はあなたがこれに成功することを望んでおられます。これこそが彼の計画です。これが、あなたが選ばれた運命です。私たちはキリストの血によって洗われ、清められました。そして、私たちは以前の服、危険地帯で着ていた汚れた衣を再び着ることを望んでいません。そして、これがキリストによって清められたことの象徴として心に留めておいてください。

さて、私たちが身につけるべきもの優しい憐れみ、親切、謙虚、柔和、忍耐；互いに忍耐し、赦し合うこと。これらの新しいものを身につける意味を理解するために、もう少し詳細に見てみましょう。なぜなら、この節を読み、その言葉を見ますが、言葉を感じ取ることはないからです。

まず、私たちも優しい憐れみを身に着けるべきです－「優しい憐れみ」という言葉は、内からわき上がる思いやりや共感を意味しています。そして、これは再び「脱ぎ捨てるリスト」に似ており、私はこれが最終的に影響を与える基盤だと信じています。

物事はその人の内面的な感受性から始まり、全存在をもって他者と、彼らが経験しているかもしれないことに敏感になる、意味です。それは深い思いやりや哀れみ、そして他者の困難に対する関心を持つことを意味します。また、これは神が私たちに対して抱く感情についても使われます。（ヒント ヒント）

次に新たに身に着けるべきものは「思いやり」です。この言葉は当然のことながら親切であることを意味しますが、実際には他人の必要を満たすという考えから来ています。この言葉は役に立つという感覚から派生しています。つまり神の霊は私たちに役に立つものを提供することによって必要が満たされることを知っています。このように、他人の必要を満たすために親切にするべきなのです。

次の身につけるべき衣は「謙虚」です。それは自分を低くするという思考を持つことを意味します。
先に行く前に、これらの新しい特性は別々に行われるべきではないことを覚えておく必要があります。他のことを念頭に置いて行う必要があります。そうでなければ無意味です。
しかし、謙虚さは古代では尊敬されておらず、また、いまでもそうです。仕事の履歴書を書くときのことを考えてみてください。
自分自身についてどのように書きますか？必ずや、キャリアにおいての素晴らしい業績で埋めるでしょう。言葉の選び方に謙虚さはほとんどないかもしれません。なぜなら、世界が何を期待しているかを知っているからです。そしてそれは当然のことです。

イエスは言います、**「蛇のように賢く、鳩のように無垢でありなさい。」（マタイによる福音書 10:16b）**。
思い出してください。私たちはこの世界の市民ではありません。この場所は、しばらくの間いるだけの異文化世界なのです。私たちはその中で生きて「蛇のように賢く」しばらくの間働かなければなりません。しかしその中で鳩のように無垢で素直であり続けなければなりません。つまり、賢明に、謙虚さを持って賢く、巧妙であるべきですが、ずる賢くならないようにする必要があります。どうやって？

**フィリピの信徒への手紙 2:3「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考えなさい。」**
それが方法です。

また、「柔和」という衣も身に着けなさい。柔和さは興味深いです。私たちはしばしば柔和さを弱さと考えますが、これは真実とはほど遠いです。柔和さの聖書的な理解は、制御された力から派生しています。これはしばしば、周囲の状況にかかわらず、信仰の力と共に歩む者の真の印として見られます。つまり、主とその主権、そしてその計画を信頼しています。実際、イエスは自分自身について**マタイによる福音書 11:29 で「私は柔和で心のへりくだった者」**と言っています。

しかし、彼は逮捕されて十字架にかけられるためにゲッセマネの園でこうも言いました**マタイによる福音書 26:53-54「[53] 私が父にお願いできないとでも思うのか。お願いすれば、父は十二軍団以上の天使を今すぐ送ってくださるであろう。[54] しかしそれでは、必ずこうなると書いてある聖書の言葉がどうして実現されよう。」**

私は娘が腕相撲をしたいと言うとき、これと同じようにします。

さて、パウロはこれらの言葉を彼自身で私たちのために定義し始め、我慢強い衣を着るようにと言っています。彼の言う「我慢強い」の意味は、互いに我慢し合い、そして互いに赦し合うことです。パウロはさらに、「不満を抱くことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。」と付け加えています。

しかし、この節の意味を感じ取るのに役立つ言葉は「不満」です。不満とは、誰かに正当な欠点を見つけるときのことです。おそらくそれは彼らのやり方です。それは慢性的な習慣であり、そう、それはおそらく慢性的な習慣です。彼らがどのような人であるかを知っていますね！

聖書は、たとえ何度も繰り返しその行為があなたに「苦しみ」をもたらしても、彼らに対して赦すようにと言っています。
そうするためには、キリスト自身が私たちをどのように愛してくださったかを思い出すことです。
この節の終わりには、NKJV（新キングジェームズ版）では「私たちもそうしなければならない」とあります。しかし、「しなければならない」という言葉はギリシャ語にはなく、実際には「ただやるだけ」という意味です。まるで、「本来なら彼らが私に謝るべきだ…」とか「彼らはいつもこうだ、決して変わらない…」といった精神的なプロセスなしに行うかのようです。
書かれている通りに、「主があなたを許されたように、あなたも同じようにしなさい」です。つまり、「あなたも」です。
あなたも十字架につけられるということです。それがキリストのようになることです。

今、あなたは既にそれが何を意味するか知っていると思います。しかし、少なくとも質問させてください：
あなたはこれらのことを実行していますか？あなたはどんな衣服を着ていますか？ まだ古い衣服を着ているクリスチャンですか、それともキリストにあって新しいものを着ていますか？ あなたはキリストにあって新しい衣を身につけましたか？

それで、パウロはさらに詳しく述べています。彼はこれらすべてのものの上に愛を身につけなさいと言っています。それは完璧の絆です。ここで注目すべき言葉は「絆」です。物を結ぶとき、紐や靭帯を使いますね。それは衣服を縫い合わせることだと考えるかもしれませんが、この言葉には生き生きとした意味があります。つまり、あなたはただ服を着るだけではなく、素敵に見えるのです。

それはあなたと共に動く新しいスーツ、生命を持つスーツ、それはあなたの人生に力を与えます。
しかし、信仰において強くある一方で、その新しいスーツはあなたの内なる神経系にも繋がり、他者に対して敏感になります。
心の中で謙虚で優しくある大いなる神のように。クリスチャンは弱くあるべきではなく、柔和であるべきです。心は敏感であるべきですが、主にあって恐れずに生きるべきです。

パウロはこう言っています…
**コロサイの信徒への手紙 3:15-16**
**「[15] また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和のために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。また、感謝する人になりなさい。**
**[16] キリストの言葉が、あなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして教え合い、諭し合い、詩と賛歌と霊の歌により、感謝して神に向かって心から歌いなさい。」**

15-16節には注目すべき変化があります。なぜなら、12-14節ではパウロは外面的なことや外部の衣服に注目していました。ここでは信者の内面に焦点を当て、彼らがキリストにおいて召されたことを思い出させています。神によって、そして神のために選ばれた者たち。神の御子との関係に参加し、共に生きるために神に愛されている者たち。
そして、自分自身を評価しながら時にはこれが本当に自分なのかと疑問に思うこともあります。でも、私たちは気を付けなくてはなりません、私たち自身や他の人達が犯した失敗のために不適合者になることはないのです。これはパウロがまず、最初に互いに赦し合うことを教会に教えている理由の核心です。信仰の挑戦とキリストにおいて新しいものを受け入れることは、ますます厳しい挑戦なくしては成り立ちません。

映画「マトリックス」を見た人はいますか？
ネオが救われた直後…つまり、世界から連れ出された後、彼は船の椅子に座り、聖書をダウンロードし始めます。いや…マトリックスで戦い、防御するための戦闘データをダウンロードし始めます。頭の中にダウンロードし、熱心に勉強します。覚えている人もいるでしょう、タンクが言うように、彼はまるで機械のようです。
それで彼とモーフィアスは道場に行って戦います。ネオはバプテスマのヨハネのようにモーフィアスに非常に印象的なスキルを見せ、驚くべきことに、ネオは彼をうまく打ち負かします。それで、モーフィアスは彼にもっと難しい試練を挑み、高層ビルの頂上まで連れて行きジャンプ…有名な「ジャンプシーン」です。さて、他のメンバーは彼が「選ばれし者」であると信じていますが、それでも何が起こりますか？ネオは顔から地面に倒れます。なぜでしょう？この挑戦は彼にとって全く新しいレベルだからです。
みんながっかりして「最初は誰でも失敗する」と言って立ち去ります。

クリスチャンとしても同じです。このプロセスは信者の人生の中で、聖書の人物の人生の中で、12人の弟子の中で、そしてイエス自身の中で見ることができます—彼自身は一度も倒れませんでしたが。パウロは、何が彼らに訪れても準備ができるようにしたいと願っています。そして、彼は外面的なものにこだわるのではなく、むしろ「神の平和があなたの心を支配するように」と言っています。
これは教会内の統一と調和へのパウロの呼びかけです。そうすれば彼らがキリストにおける自分の立場や今の教会に感謝するようになるからです。
感謝を強制することはできません、感謝の理由が必要です。感謝するものがなければ、何かに真に感謝することは不可能です。ですから、自分の心を探り、キリストにあるあなたの人生、あなたがいる教会、そして神があなたの人生に置いた人々に感謝する理由を見つけることが求められています。
時には生活や日々の忙しさに追われ、他人との関係に疲れ、冷たくなってしまうことがあります。この状況を起こさないようにしましょう。私たちは敏感であるべきで、主が何をしてくださったかを見て、忘れないようにするべきです。

**詩篇 77:11「心のまっすぐな人を救う方　神はわたしの盾。」**
主の御業を思い起こし、昔のあなたの奇跡を覚えます。

そして、パウロは私たちにもう一つ「キリストの言葉が、あなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。」と言います。それが私たちの心と頭に留まり、他の人に伝えるだけでなく、主を礼拝するように導かれるためです。
そう、聖書を勉強することは素晴らしく、有益なことです。聖書に関する大量の情報をダウンロードすることもプラスです。しかし、この新しい教会が聖書もなくそれを行うことができるでしょうか？パウロが言っている「キリストの言葉をあなた方の内に豊かに宿らせる」とは、勉強で得られる情報のことではありません。
彼らが持っているキリストの言葉とは何でしょうか？それはキリストの福音ではありませんか？私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたという良い知らせでは？

これらすべてをどのように行うのでしょうか？
ここで「キリストの言葉」に適用されるキーワードは「宿らせる」です。そして、おそらく答えを知っているでしょう、それは「キリストを私の中に生きさせる」ことです。
**「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。」（ガラテヤの信徒への手紙 2:20）**

そう、キリストは私たちの内に生きなければなりません。しかし、私たちが肉体の中で間違いを犯す間、私たちは神の御子を信じる信仰によって生きる必要があります。 私は信仰によってのみ救われることを強く信じています。しかし、これは信仰そのものに信仰を持つことを意味するものではありません。パウロがここで言っているのは、単に信仰によって生きることを意味するのではなく、そのような信仰こそがあなたが信じている宣言だということです。
信仰は信条ではありません。信仰はチェックリストではありません。信仰は無機的なものではありません。
救う信仰とは、あなたを無条件に愛してくれる神の御子イエスを信じることです。主から受ける愛の種類に重点を置いています。イエスにおいて神から来る愛は、この世で経験するどのような愛をも超えた愛でした。

それはギリシャ語でいうアガペー(Gk.)の愛以上のものです。なぜなら、地上のどの類義語リストや定義でも、イエス・キリストにおける神の私たちへの愛を説明することはできないからです。地上で主の愛を知ると、不完全ながらも、その愛に動かされ始めます。そして、新しい生き方を始めます。

しかし、パウロの要点は、イエスが私たちの内に住み、その愛が私たちの内にある間、私たちはこの日をどのように生きるかを選ぶことができるということです。
「私たちがまだ罪人であったときにキリストが私たちのために死んだ」と聞いたとき、主があなたのために何をしてくれたのか知り、どう感じましたか？

覚えていますか？
私たちは、イエスがしてくださったことを決して忘れてはなりません。これが、私たちが御霊と共に主において生きる方法です。

**結論**
17節「そして、言葉であれ行いであれ、あなたがたがすることは何でも、すべて主イエスの名によって行い、イエスによって父なる神に感謝しなさい。」
ヨシュアが死を迎える前、彼は人々に最後の挨拶をしました。彼らに神のために生きるように励まし、彼らが主を礼拝するとき、主が彼らに害を及ぼすことも滅ぼすこともないと述べました。
キリストにあって、私たちは聖霊によって永遠に印を付けられています。キリストを信じる者として、神の怒りを恐れる必要はありません。そこで、パウロはヨシュアが私たちのために予言したように、神の選ばれた民として、この世のものか、それとも主か誰に仕えるかを今日選びなさいと勇気づけています。そして、ヨシュア記 24:14 の最後の挨拶のように、次に何が来るでしょうか？
「私と私の家は主に仕える。」パウロは言います。「そして、言葉であれ行いであれ、あなたがたがすることは何でも、すべて主イエスの名によって行い、イエスによって父なる神に感謝しなさい。」ヨシュアは神の民を導いた者であり、律法の人モーセではありません。

ところで、英語でイエスをどう言うか知っていますか？なぜなら、イエスは実際には「ヤハウェは救いである」という意味のドイツ語化された形です。英語では彼の名前をヨシュアと言います。

それでは、すべての行いを主イエスの名によって行い、彼を通して神なる父に感謝しながら主に仕えますか？「私と私の家は主に仕える。」これが古いものを脱ぎ捨てて新しいものを生きることの意味です。すべてのこと、毎日、そし
てあなたの人生のすべての瞬間において。

**招き**
聖書は、今日、私たちは新しい命を歩むことができると言っています。これは神が私たちに主イエスを通して与えているものです。「今日こそ、主が造られた日。これを喜び躍ろう。」(詩編 118:24)
もし古いものを脱ぎ捨てて新しいものを身に付けたいのなら、神の子、イエス・キリストを信じてください。すると「その人の内から生ける水が川となって流れ出るようになる。」「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会

Japan Bible Society, Tokyo 201

**キリストのことをもっと知りたい**
**洗礼を受けたいという方はこちら**
**メール：cc@tokyobaptist.org**
**もしくは：https://t-b-c.us/cc**

**TBC Life 申込み**
**（毎週届くメールニュース）**
**http://t-b-c.us/tbclife**

**SG レッスンの PDF**
**https://t-b-c.us/sg5324jp**

**★クラス 301**
**私の賜物ってなんだろう？**
**1月19日（日）1pm - 5pm**
**場所: ランゲホール（B1）**
**参加条件: クラス 201 まで修了したTBCメンバー**

**★クラス 101**
**教会員になるためのメンバーシップクラス**
**2月16日（日）1pm - 5pm**
**場所: ランゲホール（B1）**
**参加条件: どなたでも**

**各クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes**

**オンライン献金**
**http://t-b-c.us/give**

**スモールグループ参加申込み**
**http://t-b-c.us/sgsu**